

「八つの幸い」

2016年08月15日

妻の父・菊池吉弥牧師が召されて30年、義母・清子姉が召されて12年になる。二人を追悼する記念会をした。4人の子どもとその連れ合い、3組の孫夫婦、小学生のひ孫2人、計16人の家族が集まって行うことができた。伝道者として生涯を捧げた菊池牧師夫妻を追悼し、一人ひとりが思い出を語り、二人に倣う信仰を生きようと心を新たにす素晴らしい記念会であった。14日（日）の主の日、私が礼拝のご用に当たった。短い説教を載せたいと思う。

説教「八つの幸い」 聖書 マタイ福音書5章3節～10節 讃美歌 57 505

昨日は、菊池先生とお母さんが眠る墓前で礼拝を捧げ、夜は、お二人を追悼して、色々な思い出を語り合うことができ、懐かしく嬉しい時を持ちました。先生ご夫妻の4人の子どもたち夫婦は皆、熱心な信仰生活をし、それぞれが教会に仕えています。このことは先生ご夫妻にとって、本当に誇らしく嬉しいことだと思います。孫たちも教会につながっています。まだ、しっかりつながっていない孫たちもいるようですが、これからつながっていくでしょう。先生ご夫妻が命をかけて、信じ従った信仰に倣うことは、残された私たちの責任だと思います。

さて、今日は日曜日、主の日です。いつものように礼拝を捧げたいと思います。私から、短い説教をさせていただきます。

先ほど読みましたマタイ福音書5章3節から10節は、イエス・キリストが山の上で話された「八つの幸い」と言われる有名な御言葉です。この聖書に関しては、菊池先生から幾度となく聞き、また、本にも著しています。

私はイエス・キリストの言葉は出来事だと思っています。パウロはコリント書1章18節で「十字架の言葉は、滅んでいく者にとっては愚かなものですが、わたしたち救われる者には神の力です」と書いています。十字架は出来事ですが、パウロは「十字架の言葉」と言っています。聖書では、言葉は出来事であり、出来事は言葉なのです。

山上の説教は言葉ですが、出来事として受け止める時、イエス・キリストの思いがまっすぐに伝わってくるように思います。

最初の四つの幸いを受ける人たちは、こう書かれています。最初は「心の貧しい人々」です。心は霊という言葉ですから、霊の貧しい、すなわち神との交流が切られている人々と解釈されています。この人々は拠り所のない、本当に貧しい、誇るべきものを何一つ持たない人々という意味でしょう。二番目の「悲しむ人々」は文字通り、生きる喜びが持たず、涙している人々です。三番目の「柔和な人々」は心の柔軟な人を指すように言われていますが、イエス・キリストがロバの子に乗ってエルサレムに入城した時「柔和な方で、ロバに乗り、荷を負うロバの子、子ロバに乗って」と言われ、歓迎されています。柔和は重荷を負うという意味です。ですから「柔和な人々」というのは重荷を、抑圧を受けてあえいでいる人々のことでしょう。四番目の「義に飢え渴く人々」は社会的な公平と正義から置き去りにされた人々です。

これら四つの人々は、そのままガリラヤの民衆です。彼らは、ローマ帝国から政治

的に支配されていました。そして、領主から経済的な搾取を受けていました。更に、エルサレム神殿、ファリサイ派の人々から宗教的抑圧を強いられていました。諸々の力から、貧しく苦しい状況に追い込まれていました。彼らはまさに「貧しい者、悲しむ者、重荷を負わされた者、義に飢え渴く者」でした。

江戸時代、農民は生かさず殺さずと言われていましたが、大方、官4民6、40%の小作料だったそうです。先日、最貧国と言われているバングラデシュでテロが起きました。ACEFのツアーでバングラデシュに行き、職員と友人になりました。彼は地主で、聞いてみたら、小作料は50%と言っていました。高さに驚きました。ところが、ガリラヤでは70%~80%の小作料が取られていたそうです。ですから、家族に何かがあると、家族は崩壊する。奴隷になり、乞食になったのです。ガリラヤの民衆は生活できない人々の群れでした。イエス・キリストの周りには、そのような民衆が群れていました。

イエス・キリストは、その民衆に向かって「あなた方は幸いである」と語った訳です。幸いというギリシア語は「マカリオイ」で、「幸い」と訳せます。しかし、この幸いという訳は誤解される。貧しい人々は幸いである、ラッキーであると取られるからです。翻訳する時、この訳は止めようという議論があったそうですが、幸いという訳が定着しているので、新共同訳でも、幸いでいこうということになったそうです。

この訳に異議を持つ人は、例えば、尼崎で活躍している本田哲郎神父は「神からの力がある」と訳しています。私は「祝福されている」と訳した方がよいと思っています。「マカリオイ」は幸い、祝福とも訳せるからです。祝福されているということは、神の祝福の下(もと)にあるということで、それは、別の言葉で言えば、あなたの生は神に肯定されている、「よし」と是認されているということです。

「貧しい者、悲しむ者、重荷を負わされた者、義に飢え渴く者」は見えるところでは、生が全く否定されているようであるが、イエス・キリストは、イヤ、そのような、あなた方こそが神の祝福の下に置かれ、その生は神に是認されている。そのように宣言されたのです。居場所を失ったような人々に、あなた方は神に祝福された、是認された居場所があると言われたのです。そして、イエス・キリストの言葉は、彼らにおいて出来事になっていったのです。神の恵みがリアリティ、現実の出来事であったからです。イエス・キリストが現された福音は、人は皆、すべての生が神から肯定されていると告げたことです。この出来事を民衆の前で現していったのです。

私の求道は、私の生をどのように「よし」と肯定できるかということでした。そのことで苦しんできました。聖書は、その問題について、罪の贖い、罪の赦し、義とされる、神との和解などという言葉で著していますが、これらの言葉は、生きることの大きいなる然りの出来事であると告げています。自分自身を受け入れられなくとも、また、人からどんなに否定されようとも、神はイエス・キリストの十字架において、「よし」と宣言してくださっている。私は、この福音を「生の絶対的肯定」という言葉で信じてきました。私は、イエス・キリストの十字架と復活の出来事に、この是認宣言を信じ、すがって生きてきました。そして、この福音を牧師として、ひたすら語り続けてきました。これ以外にはありません。

ガリラヤの民衆は、イエス・キリストからあなた方は、意気阻喪する場に置かれているが、実は神の祝福の下にあると聞いて、どれほど慰められ、励まされたでしょうか。

イエス・キリストは民衆の生を肯定した後、後半の四つの幸いで、その中から立ち上がっていく道筋を語っています。五つ目は「憐み深い人々」です。憐みとは、人の苦悩に対し、はらわたがよじれるほどの同感を持つということです。よきサマリア人は旅人の苦しみを憐れんだ。彼と同じ苦悩を体験した。だから、助けたのです。六番目は「心の清い人々」です。この人は心を澄ませて、ひた向きに、神の是認を信じていますから、神を見るのです。神を見る者は、その神を証することができます。七番目は「平和を実現する人々」です。平和は共に生きることです。他者を受容することです。ペトロ書（一）3章11節に「平和を願って、これを追い求めよ」とあります。最後八番目は「義のために迫害される人々」です。義に飢え渴いた人が、義のために迫害を受ける者となる。公平と正義を求め、自ら苦しむ者となると言っています。

最初の四つの幸いは、地面に叩きつけられていた者たちへ与えられました。彼らは神の祝福の下にある。そのように神に生が是認されていることを知った。その者は、立ち上がっていく。他人の苦悩を自らの苦悩とし、神を証し、共に生きる平和を求め、義のためにあえて苦しみを負う者へと変えられていく。これが、イエス・キリストが約束した祝福であると、ガリラヤの民衆に語ったのです。それは、そのまま、私たちに語られた御言葉です。

この後、イエス・キリストは「あなた方は地の塩である。あなた方は世の光である」と言われました。地の塩になれ、世の光になれと言ったのではありません。あなた方は、既に、地の塩、世の光であると言われたのです。なぜなら、あなた方は、既に神の祝福の下にあるからです。

私たちの生活の現実には地の塩でなく、世の光でもない。敗れていて、そこに苦悩がある訳です。井上良雄先生は「山上の説教」は終末論的希望において読むのだと言っています。今は敗れていようとも、主イエスにつながっている者に、既に与えられた恵みがある。そう信じるから、敗れていても与えられた望みに生きる。泣きたいような絶望にあってもユーモアを持って、今を楽観して生きることができる。そのような祝福の言葉、出来事です。

私は引退して2年になります。ゆったりした時間を好きなように過ごせることを、申し訳なく思うこともありますが、残された年月、イエス・キリストに祝福の下に置かれた者として、可能な限り、福音に与った意味のある生き方をしたいと思っています。そして、菊池先生とお母さんから薫陶を受けた私たちが心をつにして、お二人に倣う者でありたいと願っています。

お祈りを捧げます。